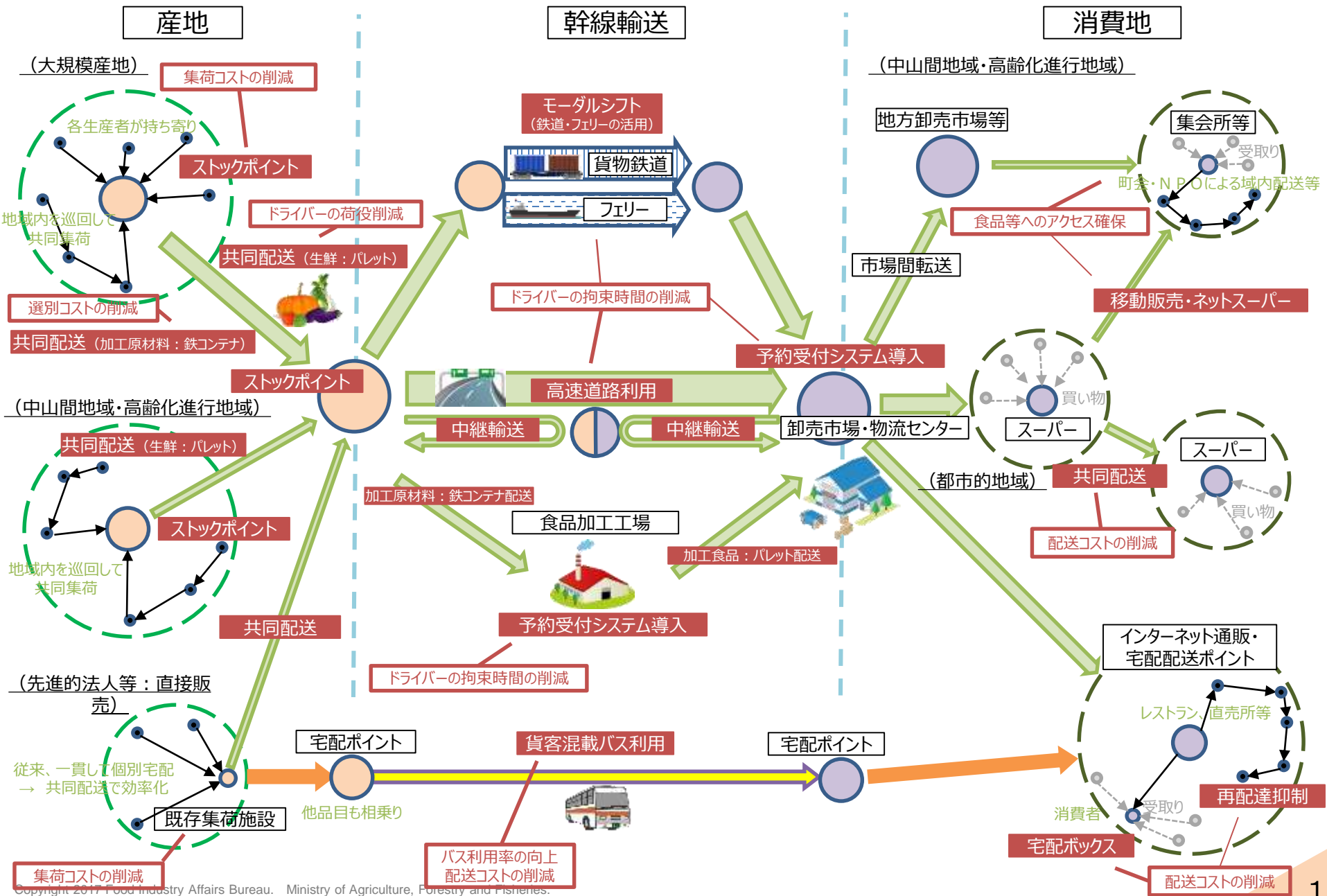


食品等の流通合理化について

農林水産省
食料産業局

食品等の流通合理化を進める各種の取組（全体像）



課題解決に向けた取組①

課題

- ドライバーの「長時間の拘束」「荷役作業の負担」等を改善。

取組

○ ICTを活用したシステムの導入

- ・産地の「効率的な集荷システム」
- ・物流センターへの「到着予約システム」



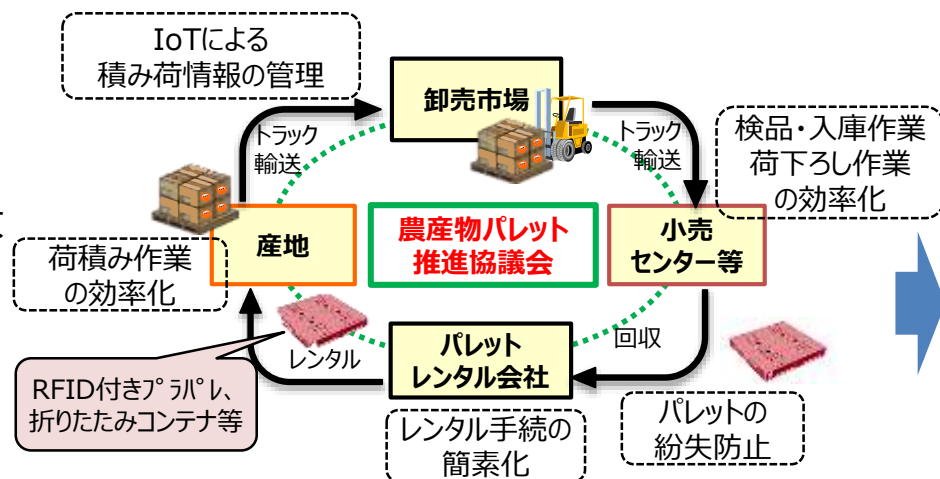
トラックバスの空き時間を見える化し、ドライバーがスマートフォンなどの端末から事前予約できるシステム

○ 一貫パレチゼーションの実証

- ・RFIDを活用した積荷・パレットの管理
→物流情報を共有
→コスト低減、労働時間の短縮
- ・RFID付きパレットに加え、通い容器にも拡大

○ 新たな輸送体系の推進

- ・複数産地や異業種とのトラック共同集荷・配送
- ・新たな船舶輸送体制の構築



取組を全国展開することにより、流通を合理化・効率化

農産物パレット推進協議会(代表理事:全農)

正会員: 業界団体、JA県本部・経済連、大規模卸売業者、レンタル事業者
利用会員: 産地JA、中小卸売業者、物流業者
賛助会員: 物流業者、仲卸業者、小売業者、実需者

課題解決に向けた取組②

課題

- 農産物の販売先は多様な販売ルートの中から選択。他方、物流は大ロットにまとめて効率化。

取組

○ 卸売市場の物流拠点としての活用

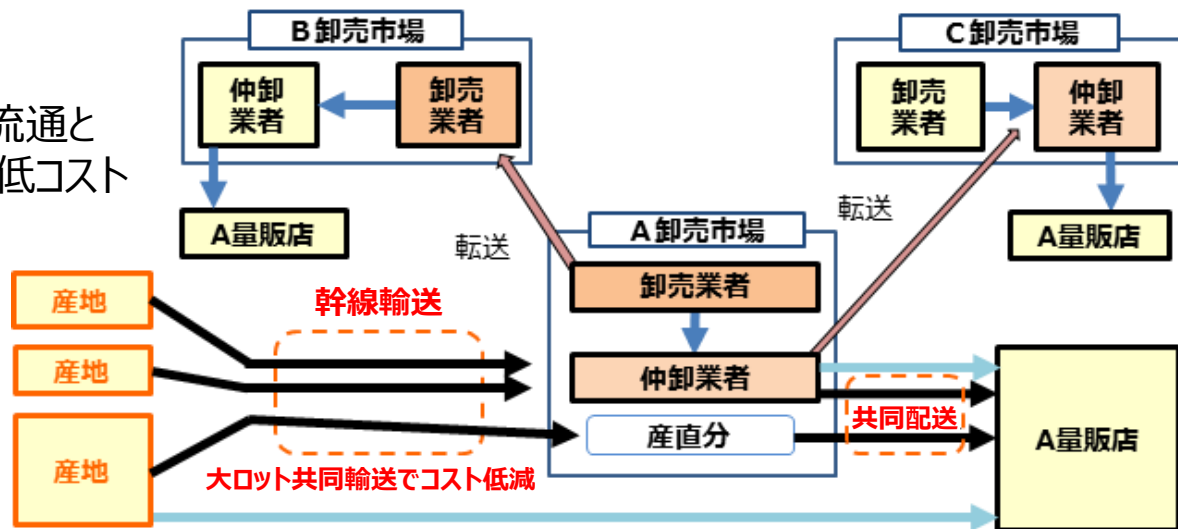
- ・ハブとなる卸売市場には、卸売市場流通と産直等の垣根を取り払い、大ロット・低コストで輸送

○ 多様な販売ルートの「見える化」

- ・生産者、卸売市場、小売バイヤーの取引先を開拓するためのマッチングサイト「アグリーチ」を開設
- ・物流手段に関する情報も掲載

○ 物流拠点の「見える化」

- ・農産物の物流拠点のほか、他産業等の物流拠点も把握
- ・空き情報等の共有等によりマッチング



農産物の物流拠点の効率活用

【課題】

農産物のロット集約や効率的な集配送等に重要な卸売市場や民間の物流センター等の物流拠点について、稼働率が低い時間帯の存在、自動化・パレット化等の未浸透など、効率的な活用に課題

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021~2023 年度	2024 年度
農産物の物流拠点の効率活用	農産物の物流拠点の調査・分析、評価指標の開発	物流拠点情報の「見える化」、施策評価・改善	物流拠点の合理的な活用方法を構築		上限規制の適用開始

課題解決に向けた取組③

課題

- 情報技術の導入やデータの利活用により省人化・省力化を推進。

取組

○ 物流、商品管理、決済について、データの共有・活用や省人化・省力化の取組を実装

- ・物流では、RFIDを活用した積荷・パレットの管理等により物流情報の共有化や業務の自動化を推進し、コスト低減や労働時間の短縮を実装。
- ・商品管理では、管理情報をリアルタイムで共有するとともに、過去の取引データを蓄積し、トレーサビリティの向上、需要予測等に基づいた計画的な発注・出荷を実装。
- ・決済では、ブロックチェーン等を活用して業務の共通化を図り、コスト低減や決済データ解析を実装。

